

ACT-A WATCH

新型コロナとたたかう国際協働のいま

No.1
April 2021

JCIE

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束の決め手となるのが、検査、治療、ワクチンの3つの医療手段（ツール）です。ACTアクセラレーター（ACT-A）は、この開発や生産、低・中所得国の公平なアクセスをそれぞれ加速させるために立ち上がった国際協働の枠組みです。世界保健機関（WHO）の主導で2020年4月に発足し、1年が経ちました。ACT-A WATCHは、その進捗状況や最新情報、課題などをお伝えします。



COVAXで初めて届いたワクチンの接種がガーナで始まった

©Gavi/2021

ACTアクセラレーター（ACT-A）とは

2019年12月に初めて症例が報告されて以降、瞬く間に世界を席卷した新型コロナウイルス。世界保健機関（WHO）は2020年1月に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。3月には新型コロナウイルスに関するG20首脳テレビ会議が、議長国のサウジアラビアの呼びかけで開かれ、国際的な協力による早急な取り組みの必要性が首脳声明に盛り込まれました。これを受けてWHOは4月24日、保健分野に関わる国際機関や欧州連合（EU）、フランス、民間財団などを発足メンバーとして、Access to COVID-19 Tools Accelerator（新型コロナウイルス感染症に関連する手段〈ツール〉へのアクセスを加速化する枠組み）を立ち上げました。

頭文字を取ってACT（アクト）アクセラレーター（ACT-A）と呼ばれる、新しい枠組みは、二つの目標を掲げています。一つは、検査や治療薬、ワクチンなどの開発・生産を急ぐことです。もう一つは、これらの配布や普及にあたって、国の経済力などによって不公平・不平等が生じないような仕組み作りです。このため政府、企業、市民などが分け隔てなく参画し、資金や技術、知見などあらゆる面での協力を進めていくことが求められています。背景には、グローバル時代に起きた爆発的感染を収束させるため、一人でも感染の危険性があれば、すべての人が安全とは言えない、言い換えれば、誰一人として取り残してはいけない、という考え方があります。

組織体制と目標



ACT-Aは、新たに生まれた組織ではありません。爆発的な

感染を早急に収束させるため、既存の組織が集まり連携を加速・強化していくために、時限的に作られた枠組みです。三つの部門（ワクチン、検査、治療）と「アクセス・分配」、そしてその下支えとなる「保健システム」で構成され、それぞれの分野で知見や専門性を持つ国際機関や民間財団が主管組織として運営の責任を持つことになっています。また全体のガバナンスを担う運営理事会（ファシリテーション・カウンシル）が発足し、日本は発足当初より、フランス、英国、ドイツ、ノルウェー、南アフリカなどとともにメンバーとなっています。

主要3部門のうち、ワクチン部門は、「新型コロナウイルス感染症ワクチンの国際的なアクセス」（Covid-19 Vaccines Global Access、COVAX）とも呼ばれ、安全かつ効果的な承認済みワクチンを調達し、90を超える低・中所得国を中心に公平に分配することを目指しています。発足時から今年末までに少なくとも20億回分の供給を目標に掲げています。主管組織に加えて、ポリオなどワクチンの供給や接種などを長年担ってきた国連児童基金（ユニセフ）が、配給のパートナーとなっています。

検査部門は、安価で迅速に精度の高い結果が分かる診断薬や検査キットの開発を進めるとともに、低・中所得国に公平に分配し検査を大規模に拡大する事を目指しています。今年末までに9億回分の検査を提供し、低・中所得国の検査率を上げることを目標に掲げています。治療部門は、効果的な治療や予防に向けた高度な研究を進める一方で、酸素療法関連製品の提供や、科学的に効果が証明された場合、1億人分をめぐりに治療薬の供給を低・中所得国に向けて行うことを計画しています。

■ ACTアクセラレーターの各部門と主管組織

	ワクチン部門 (COVAX)	Gaviワクチンアライアンス CEPI（感染症流行対策イノベーション連合） WHO（世界保健機関）
	検査部門	グローバルファンド (世界エイズ・結核・マラリア対策基金) FIND（診断技術革新推進財団）
	治療部門	ユニットエイド ウェルカム・トラスト
	保健システム	グローバルファンド 世界銀行 WHO
	アクセス・分配	WHO

これまでの実績

ACTアクセラレーター（ACT-A）の発足から1年の節目を迎え、これまでの実績についてまとめた報告書などが相次いで公表されています。世界保健機関（WHO）が4月23日に発表した「ACT now, ACT together 2020-2021 Impact Report」などから主な成果をまとめました。（※1、※2）

【資金】

- ・必要な予算、計332億ドル（3兆5900億円）のうち、42%に当たる141億ドル（1兆5300億円）の拠出表明

【検査部門】

- ・従来のPCR検査よりも安く、検査技師や設備が不要で、結果が早く分かる「迅速抗原検査」の開発を支援し、わずか8カ月で供給可能に
- ・規模の拡大や現地生産などにより、迅速抗原検査の価格が、2.5ドル（270円）以下まで下がったことで、低・中所得国への普及に弾みがつく見通し
- ・これまで6500万回分を超えるPCR検査と迅速抗原検査を低・中所得国向けに調達。迅速抗原検査については1億2000万回の検査を低・中所得国用に確保

【治療部門】

- ・WHOが現在、治療薬として唯一認めているステロイド薬「デキサメタゾン」を290万回分調達
- ・20カ国にのぼる低・中所得国で不足が深刻化している医療用酸素について、喫緊に必要な9000万ドル（97億4千万円）のうち2000万ドル（21億7千万円）の割り当てを開始
- ・治療薬候補の臨床試験の支援や分析などを実施

【ワクチン部門】

- ・12のワクチン候補の研究開発に12億ドル（1300億円）を拠出。うち3種類については重症化を抑えることに効果があることが分かり、2種類は緊急使用を承認
- ・COVAXにより4300万回分を超えるワクチンが120カ国に供給

【保健システム部門】

- ・保健医療従事者を感染から守る防護具を調達（5億ドル相当）
- ・途上国の保健システム強化のため、問題点を洗い出す調査を実施

“ACTアクセラレーターは、短期間で多くのことを成し遂げた。新型コロナウイルス感染症から命を救う治療法を見出すのを助けてくれた。ありがたいことに低所得国で3ドルに満たない額で検査ができる。またCOVAXによってワクチンが無料、もしくは安価で100を超える国に送られている。一つの組織だけではできなかった。ともに手をたずさえることで、奇跡を実現したのだ”

（フンデアライエン欧州委員長）

COVID-19とACTアクセラレーターをめぐる経過

2020年

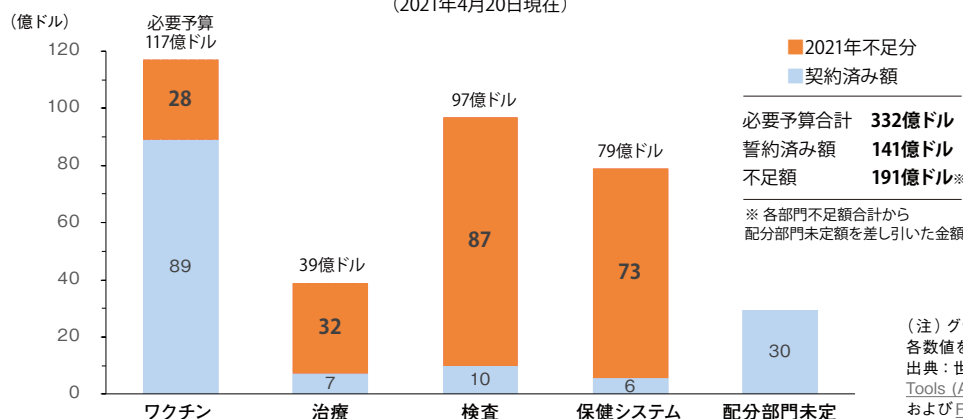
- 1月30日 世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルスについて「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言
- 3月26日 G20が新型コロナウイルス感染症をめぐる国際的な取り組みを呼びかけ
- 4月24日 WHOや国際保健関連の団体が、ACTアクセラレーターを立ち上げる
- 5月4日 欧州連合（EU）主催、フランス、ドイツ、スイス、イタリア、英国、日本等が共同提案国に加わり首脳級会合開催。各国などから計80億ドルの拠出表明
- 6月4日 英国主催の「国際ワクチンサミット」が開かれ、Gaviワクチンアライアンスに対し、新たに88億ドルの拠出が表明される
- 9月25日 WHO、21年末までに381億ドル必要と発表
- 9月28日 WHO、新たな迅速抗原検査の供給開始を発表

2021年

- 2月19日 米国のバイデン新大統領含むG7首脳テレビ会議にて43億ドルの追加支援を確認
- 2月24日 COVAXが供給するワクチンの第1弾がガーナに到着
- 3月12日 WHO、年内に必要な資金として、221億ドルが不足していると指摘

ACTアクセラレーター各部門の資金調達状況（誓約額と不足額）

（2021年4月20日現在）



©WHO

（注）グラフ中の数値は億ドル単位で四捨五入しているため、各数値を合計した場合、上記の表中の数値とは一致しない。
出典：世界保健機関（WHO）The Access to COVID-19 Tools (ACT) Accelerator Strategy and Budget for 2021 および Funding tracker をもとに日本国際交流センター作成

日本の取り組み

新型コロナウイルス感染が急拡大する中、日本政府は「多面的な脅威を伴う人間の安全保障の危機」と位置づけ、また途上国を含め、すべての人が質の高い医療・保健サービスを支払い可能な価格で受けられる「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」を推進している立場から、ACTアクセラレーター（ACT-A）を20年4月の発足当初から支持してきました。

翌5月に欧州連合（EU）が主催した首脳会合で、安倍晋三首相（当時）はビデオメッセージを寄せ、国内外において治療薬・ワクチンの開発を推進していること、それらへの公平なアクセスが重要であること、医療体制の脆弱な途上国に対し保健システム強化のための支援を拡充していることを強調し、日本として応分の貢献を行うことを表明しました。また全体のガバナンスを担う運営理事会のメンバーとなりました。

日本政府は、ACT-Aの枠組みとして、これまでに合わせて3億4600万ドル（約375億円）の拠出を表明しています。内訳は次の通りです。

【ワクチン部門】

- ・CEPI（感染症流行対策イノベーション連合） 9627万ドル
- ・Gaviワクチンアライアンス 2億ドル
- ・国連児童基金（ユニセフ） 4090万ドル

【治療部門】

- ・ユニットエイド 890万ドル

21年4月16日（米国時間）にワシントンで開かれた初の対面での日米首脳会談では、新型コロナウイルス感染症対策についても意見が交わされました。会談終了後に発表されたファクトシート「日米競争力・強靱性（Competitiveness and Resilience; CoRe）パートナーシップ」^(※3)の中の「新型コロナウイルス対応、グローバルヘルスおよび健康安全保障」において、ACT-Aへの両国の支援強化が表明されました。

具体的には、「COVAXファシリティを含むACTアクセラレーターへの両国の支援を強化しつつ、他のパートナーにも同様の対応を奨励することで、特に開発途上国における安全かつ有効で手頃な価格のワクチン、治療薬及び診断への公平なアクセスを確保するための資金的ニーズを協力して満たしていく」とし、両国が協力して支援していくことが言及されました。

日本への視線

米国の国際政治学者、イアン・ブレマー氏が率いる調査会社ユーラシア・グループは20年11月、「ACT-Aプログラムへの日本の貢献：グローバルリーダーシップを再確認する」と題する報告書を発表しました。^(※4) その中で、新型コロナウイルスのワクチンが世界に公平に行き渡れば、日本を含めた先進国が経済的な恩恵を受けると指摘する一方、UHCや人間の安全保障を主導してきた日本にとって、ACT-Aへの貢献は国際社会での日本のリーダーシップを改めて確認する機会だと述べています。また米中対立が深まる中、日本の貢献は、地政学的な観点からも重要だと主張しています。

海外メディアが伝える現場の様子

ワクチン接種、遅れるアフリカ

COVAXによるワクチン供給を世界で最初に受けた国は、西アフリカのガーナだ。2月24日早朝、インドでライセンス生産されたアストラゼネカ社のワクチン60万回分が、首都アクラに到着した。COVAXは低・中所得国などを対象に、年末までに少なくとも20億回分の供給を予定しており、今回はその第一歩となるものだった。2日後の26日にはコートジボワールに50万4000回分が届けられた。WHOなどによると、サブサハラ地域54カ国のうち、47カ国でワクチン接種が始まっている。これまで600万回分が届けられており、その主な供給源はCOVAXだ。

順調に進んでいるようだが、見通しは必ずしも明るくない。英BBCによると、今年に入り感染が急拡大しているインドでは、政府がワクチンの輸出を一時的に停止する命令を出し、COVAXの供給計画に影を落とす。

さらにワクチンが届いても「アフリカの多くの国で接種が遅れている」と英エコノミスト誌が伝えている。^(※5)

WHOが状況を把握している45カ国のうち、32カ国では供給されたワクチンの半分以上しか使われていないという。例えば、3月5日に初めて51万2000回分のワクチンを受け取った東アフリカのマラウィでは、7週間経っても、実際に使われたのはほぼ半分に過ぎないという。

同誌は、その理由として、実施体制の脆弱さや希望者の少なさを指摘する。ワクチンを国内で接種するための費用負担が大きい。またそもそも先進国などと異なり、アフリカの多くの国では新型コロナウイルスの感染が大きな社会問題として認識されておらず、市民の接種意欲は必ずしも高くないという。3月に発表された世論調査によると、5カ国で接種したいかどうか尋ねたところ、平均で6割が「接種しないだろう」と回答した。さらに「新型コロナウイルス感染症は外国による陰謀」「子供が臨床試験の際に大勢亡くなっている」といった偽情報がソーシャルメディアなどで拡散していることも、市民が接種に二の足を踏むことにつながっている、と伝えている。

ワクチン供給と接種を加速させるため、今後、国際社会のさらなる後押しが期待される。

今後の課題

新型コロナウイルスをめぐる状況は日々大きく変化しています。ワクチンや安価で簡便な迅速検査法などは、ACTアクセラレーター（ACT-A）が立ち上がった1年前にはなかったものです。一方で、感染力が強いとされる変異株が次々と現れ、ウイルスと闘う手段（ツール）の有効性が脅かされています。

4月23日に開かれた、ACT-A発足1周年のオンライン記者会見で、世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は、資金不足やワクチン供給の偏りなどを挙げて、「手段はあるにもかかわらず、多くの命が失われるのを放っておいていいのだろうか。不公平な世界を変えなければならない」と、各国政府や企業などにさらなる貢献を訴えました。

“今日は、1周年を祝うのではなく、もっと真剣に闘うと心に誓うべき日だ。私たちは世界中の人々に対して、一刻も早く感染に打ち勝ち、そして誰ひとりとして取り残さないように取り組む義務を負っている”

（「グローバルファンド」のサンズ事務局長）

最大の課題として、テドロス氏が指摘するのが、圧倒的な資金不足です。予算総額332億ドル（3兆5900億円）のうち、各国政府や企業、財団などが拠出を表明したのは141億ドル（1兆円5300億円）で、不足分は191億ドル（2兆700億円）にのぼります。部門別の偏りも目立ちます。ワクチン部門の調達率は76.0%を数える一方、治療部門は18.6%、検査部門は10.2%、保健システム部門は7.1%にいずれもとどまっています。とりわけ

ワクチンの普及と並行して、「検査(test)、接触者追跡(trace)、治療(treat)」の3つのTを回していくことで、感染者を迅速に見つけ、接触者を探し、感染者を隔離し、重症患者を治療するというシームレスな対策が可能となり、その結果、感染の連鎖を断ち切ることに繋がります。

またワクチン供給をめぐるっては、先進国による直接買い付けや、生産国による輸出制限や外交手段としての活用、技術や知的財産権の移転への消極姿勢などが、世界的な生産や供給不足を生み出している、とWHOは指摘します。テドロス事務局長は4月22日付のニューヨーク・タイムズ紙への寄稿で、「豊かな国が（低・中所得国への平等な供給を目指す）COVAXの支持を表明すると同時に、COVAXに割り振られるべきワクチンを自国のために確保しようとしている」と述べ、先進国の二重基準を批判しています。（※6）

“ワクチン・ナショナリズムは、新型コロナウイルスの爆発的感染（パンデミック）からの収束を大きく妨げ、各国間の不平等を一層深刻にしている”

（南アフリカのラムポーザ大統領）

主要な医学誌の一つ、ランセットは、4月17日号で、「ACTアクセラレーターは正しい方向に進んでいるか？」と題する社説を掲載し、①既存の開発援助モデルに依拠しているため、各国の財源が開発援助（ODA）に限られ、資金不足に陥っている②検査、治療、ワクチンという技術的ソリューションを重視しているため、保健システムやパンデミックを引き起こすシステムへの対応が足りない、などと指摘しています。（※7）

- 引用 ※1 <https://www.who.int/publications/i/item/act-now-act-together-2020-2021-impact-report>
 ※2 <https://www.unicef.org/supply/covid-19-vaccine-market-dashboard>
 ※3 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100177725.pdf>
 ※4 https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/act-accelerator/2020-japan-participation-in-the-act-a-program-11_26_2020.pdf
 ※5 <https://www.economist.com/middle-east-and-africa/2021/04/24/africas-covid-19-vaccination-drive-is-off-to-a-slow-start>
 ※6 <https://www.nytimes.com/2021/04/22/opinion/who-covid-vaccines.html>
 ※7 <https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-67362100835-7/fulltext>

（注）本文中の米ドル金額表記後の括弧内の日本円金額は USD1=JPY108.25（日本銀行発表 2021年4月27日 スポット・レート中心相場）を基にした概算値

創刊にあたり

この度、日本国際交流センターでは、新型コロナウイルス感染症に対するグローバルな対策を推進する画期的な枠組み——「ACTアクセラレーター」に関する最新情報を定期的にお伝えする『ACT-A WATCH』を創刊することになりました。従来、低・中所得国支援の文脈で語られることの多かった感染症が、新型コロナウイルスによって高所得国の国内課題にもなったことで、今まさに、グローバルなレベルで公平な保健・医療サービ

スへのアクセスを実現する新たな枠組みが求められています。「ACTアクセラレーター」は、健康格差を縮小するために近年進められてきた様々な国際的なイニシアティブが結集した実験的な試みとも言え、将来起こりうる感染症に備える態勢を作る上で試金石となります。当センターは、『ACT-A WATCH』を通じて、保健分野における日本の効果的な国際貢献のあり方についての議論を喚起していきたいと考えています。

ACT-A WATCH (アクト・エー ウォッチ)

2021年4月28日 No.1

編集・発行：公益財団法人 日本国際交流センター（JCIE）

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目1番12号 明産溜池ビル7F Tel: 03-6277-7811(代表)

©Japan Center for International Exchange 無断転載禁止